

# 高等学校国語科における 教育の情報化に関する実践研究

学籍番号 169976

氏名 北野 優樹

主指導教員 田中 満公子

## 1. 背景と目的

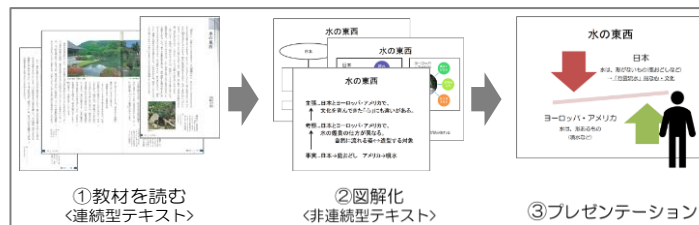
情報化社会の急激な進展に伴い、教育の情報化（情報教育や教科指導におけるICT活用など）の重要性が高まり、その充実が図られている。

しかし、情報活用能力（情報活用の実践力や情報社会に参画する態度など）のいくつかの点においては依然として課題があること（文部科学省「情報活用能力調査（高等学校）調査結果」）や、国語の授業においてコンピュータがほとんど活用されていないこと（国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査 PISA 2009年デジタル読解力調査」）なども明らかとなっている。

そこで本研究では、国語科における教育の情報化に焦点を当て、国語科におけるICT活用や情報活用能力の育成に関する実践を進めていくことを目的とした。ICTを活用したいくつかの実践を踏まえたうえで、「ICT活用を通して情報活用能力をどのように育成するか」というテーマのもと授業を行い、そこで展開した指導方略が情報活用能力の育成に有効であるかどうかを検証した。

## 2. 実践内容

「ICT活用を通して情報活用能力をどのように育成するか」というテーマにおける授業では、プレゼンテーション用ソフトを用いて、「教材を読む」→「図解化」→「プレゼンテーション」という一連の指導方略を独自に計画し、実践した。



本授業における指導方略のイメージ図

これは、生徒らが教材を読んだうえで、プレゼンテーション用ソフトを用いて、その教材の内容を1ページに図解化し、さらにそれを用いてプレゼンテーションするというものである。この過程を通じて、教材内容の理解と情報活用能力の育成（スライドの作成方法や、スライドを用いたプレゼンテーションの仕方などの理解と実践）を図った。

### 3. 結果

生徒が作成したスライドを確認すると、そのほとんどが3つの評価規準（「①図形の活用によって、全体の流れやキーワードの関連性が分かりやすいものとなっている」「②簡潔にまとめられている」「③デザインへのこだわりがある」）に向かって作成することができていた。そして、それらを用いて行ったプレゼンテーションにおいても、3つの評価規準（「①ツールをうまく活用して話しているか」「②話している内容が伝わりやすいものとなっているか」「③ツールを見過ぎずに、聞き手を見ながら話しているか」）を重視して行うことができていた。

また、授業前後における情報活用能力の変容を質問紙調査の結果から確認すると、4項目（「①プレゼンテーション用ソフトを使って情報

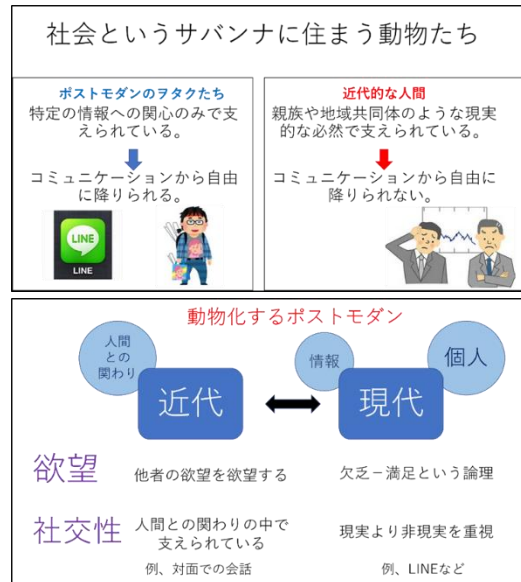
をうまくまとめる自信はありますか」「②プレゼンテーション用ソフトを使ってプレゼンテーションする自信はありますか」「③プレゼンテーション用ソフトが持っている特性・性質を理解していますか」「④プレゼンテーションなどの機会があれば、プレゼンテーション用ソフトなどのツールを使用したいと思いませんか」）のすべてで上昇がみられた。自由記述の面からは、スライドのまとめ方について、「簡潔性」「図形の活用」「デザインの工夫」に関するものなどがみられた。また、プレゼンテーションの仕方については、「視線」「ツールの活用」「話し方」「演じる」に関するものなどがみられた。そのほか、「プレゼンテーションの必要性」に関する記述も多くみられた。

さらに、授業後における教材内容の理解度を質問紙調査の結果から確認すると、「この授業を通して、教材（本文）の内容理解はさらに深まりましたか」という項目では、肯定的な回答が100%となった。また、「教材（本文）の内容を理解するにあたって、プレゼンテーション用ソフトを見せ合いながら、交流することは有効だと思いますか」という項目でも、肯定的な回答が97%となった。生徒の自由記述からも、「講義型ではない授業の楽しさ」や「教材内容が理解できた」に関するものが多くみられた。

### 4. 成果と課題

以上の結果から、本授業における指導方略が、教材内容の理解と情報活用能力の育成に対して有効であることを示せたといえよう。また、本指導方略のようなアクティブ・ラーニング型授業が深い教材理解にとって効果的であったことも一定程度示せたといえる。

その一方で、情報活用の実践力をより大きく育むという点では、より継続した実践を行う必要があることなどが、今後の課題として残された。



生徒が作成したスライド例